# 東海道名所記

零本

ル 3
1414

門ル3
巻

# 東海道名所記四

ごゆうさ
おきの

ゆうより赤坂まで十六町

男中よりも。今日此辺は海ばかりにて。海くも事にも
つゞ。足はまでつゞれば。つゞ家多く。人と
ゝ。楽有。孫ばかりにて。今わかはまでゝ。ゝ
六町也。いつ。箱ちゝ。ゝにの事ども。ゝ。飛ハ。詩
歌もつくゞくゝす。竹きゝひよとびのり。赤
坂まで。米ゝ。ゝ。ゝ。

たるたうらなる山のかりねに事わりぱつまるあれい
竹の元としてたゝかの絶也とふ樂の泳やて
扶ぱ布留の社とふ名成二りの打いかう城の源
山と大和國添上乃郡布留乃川は女代布と
ゆひてわりしる。川こゝり流れそこ
つゝく。布まゝとうとしこゝりわびて流のとまて
しゝぱ。生ゆて扶のまゝ。二本よわれゝり社
乃上布留明神也神ゝまゝしゝかゝとまりる。
布ゝ流ゝ川まゝ二里九町
布ゝ宿よへそれだ。宿ゝに遊女あり。志ゝ
びく旅人とゝじ。そゝゝゝ世いく。社ゝ
もゝ生つる。相宿もゝ世ゝかゝくるゝの

宿人ゝ海ゝ世ゝ社。そゝゝいゝゝ宿ゝかゝ
ゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ
す。男ゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ
人ゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ
みゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海辺の家也。主人ゆゑ、実の孝と
のこす。尾張あつたやまわく。清洲橋柴。萩原をそう。
乃僕とり。大臣へ、わかく、まいたの乃たまりりよ大臣
と雲井このあひだ。赤坂おりゑ音助う京うつ也
能が地方へ此れそ大ある れこ中乃り。松い心ゆ
て地ようさうり也。このもにさりゆめれいそ
わすへ月ゆるとそ中つ仏づうとうる。楽乃
泳やそりうち此景之とうへ人ハこの中しつき。
つうりうる当義ある人へり。廣乃とう園乃代女
よりてそ乃し。園乃そうひよ清水わりこの
久氏貪泉とつむ。むうしうへてこれ中氏
のむ云いうは当義へ清人を人へ歌ゆうく



ゆ氏うしうるかゆはゆゆて。貪いむこうり
とうゆちく。貪泉とうづくこ中きうと景之
こうはゆこそこのうと飲てゆこはうりていく

古人言性水
試使夷齊飲
一嘗千金
伯夷不易心

といつり伯夷叔齊とて殷末の孤竹ハ胡国乃王此る
うし。いうへうびうき立義ゆうこのゆと
ゆうりこのみこうりこそこの豪亜ゆうんハ当ゆう
ずやこそ景之ゆうし。いつく立義は
て歌人ゆうりきこいり。赤坂の物見乃れと
さうしで。盥へこうゆ此つくとうハ。亜俗しり盥人
へうりのゆうハ。この れとうりそれりそて

立義とうすうは理あり
と恬然ぶりよやまし
ど。亭主も男し因ごろわ
せしてたりと明じ
ゝら弾ありぶろ手間乃殺さつるまがんかとそ。
ゝかずその松下ばうにわ
貪泉いのまゝ。
見れどかくるゝ物ありぞしとまれといきめ
ゝまつぶめてむくいかゝ地ぶうう。世まもむく。
祇ゝ寶とうしぶ氏このようりのかんぶ
う朱練かゝ方に盥ミ掠めわるひいゝ海男
かんとる和とうすうしかりぶくこひもう
なーとぶやらん論評めうさう社敷うか。わろく
酒のうて掘のつゝしとゝ市氏さんとて。遊女一二人と
もびて。酒乃ちけまバ楽物孫もうちとりて。立場

乃小子とうゝ。女も与ゝ
かりに。なるの物めうゝ
きてうふ。はゝ寺乃
ぶそうけの。きぶなうゝ
男もせめて。園乃作ゝ
う楽乃孫

かり孫ゝる面ゝ
うゝ氏ゝもむ和ゝ
あくて秋乃女まいゝ
長沢　山茶屋右乃ゝ
乃のゝ山中ま法寺
いゝ　東恵権沢いゝ

山神ぶりと舞けう
ゝるわひぬと。遊ゝも用ぶ
乃掘もひくゝ海ゝ。遊女
ありきてとゝかりとわりゝ。
ゝもつまり形りぶゝふ

ちゝさ遊ゝれ
和ゝるのゝ
ゝかはゝゆ
にわり
ゝ寺ゝて浮去宗乃まゝり。
ひあるわゝ　まゝうゝ。ぶ

らにして。沖よりひきてとりうちぬ。
さへ。ぬりうる山にて。こうの。狸ありとも
安川より長谷寺まで一里七町
わらへの数多に
安川乃渡の絞うや紫とえ
宿にかれど島にて。舟。きして。舟賃。種乃ひ
ゆうまの乃こへてしられど男
安川や島乃者よ風ふけばさらて者かさひ〳〵とれの渡
長乃郷とうく。そうあ乃郷ようう。高はわるよ女家。
樽楽の帳あろ。ふさお者とて田乃わぎとうこい
ゆく楽仏泳
樽うびく者よぶしの賤の女ひうあ奥いものそうあ人うこ



たのうこまの山茶やうあ泊わり　大平川橋わり長さ
四十二間　あげの郷
悪滝より池鯉鮒まで三里八町
たうこまよ城わり宿乃町こうまよ川わり松柴川と
以橋わり長さ二十二間
矢矯橋長さ二百八尺橋ようあ人橋
仏ぐりうく。浩水の河。そうぐれて。陽米の人橋
つまうの。ようあ。ぐりうく。比より数がり長ようあ。建武
年中ふ足利ぐる氏。種舎よわりて。後醍醐天皇
乃命とうしうこ彩面義貞と大将軍ようてこ
ぐうこ山ありて。毋舎物とお舎。くこわりちうこ
ぐる氏ようまげて。陽坂まで。ようぐ

東矢ぶ　西矢ぶ　矢ぶ乃宮　此田乃中よ。伝説歌
わり。しら矢ぶ乃宮　矢ぶ乃宮　矢ぶ乃しら。淨瑠璃姫
の屋敷わり。さと矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ
日本武の尊。東南ハとりがうんとて。こ乃西ぶ
ぶりの乃。矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ
矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ　矢ぶ
うぶ　ぶ乃村　尾張の郷。こ此乃ひぶに花ん
海ぶ一すじわり。小演ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
今村　釜やわり　西田
海道　ちりぶ乃ぶ一里塚。八橋乃舊跡わり。その
みぶいぶ乃ぶて東海ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
わり乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ
ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ



みぶ乃ぶ。伊勢物語ハ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ
いひきかハ川乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ
流れぶ。その水ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ
蜘蛛ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
と乃ぶ。その澤ぶ　杜乃ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
杜乃ぶ乃ぶ影ぶ乃ぶて　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
乃ぶ。乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ
業平ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ハ橋乃ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶて男ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ入り　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ乃ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

ものをとて。俺ろくでなしとみる人とゝ人ハ撃何ゝ
みゑ

きてやきすり
はぐゝわ是
そろめこれめろ
そらゝ行ぞ行ゝ
とゝりきれ男しとゞれとゞそろ
海ろ。ゝ。ゝ。ゝ

池鯉鮒より喰違まて二里廿町
ほどあり一里半の濱名より。ひくくの城を信濃守
いかりをぬきたのもるまりの
右の方に狭大宗岐大明神のやしろあり。家より池あり。
明神の使者とて。鄭鯉鮒。この名は池鯉鮒
とつゝかへつるゝ
毎年四月ゝ馬市あり。四方より弐万
てうを賣也。諸方より領城地へつゝ
るゝ。市立のゝ賣る。さるまゝよりとりてそ
のゝとりあげ。まとゝかにありてのゝ
あり。癒をとりて。一朝中ましてはのゝ
のゝ弐万賣まわて利かしあるゝ城

賣りのいなるゝ後ゝ也とゝかわるゝくゝいとゝ
ゝきてゝらふ
芋や　津の国兎原の郡より兎原郡
遠葉郡国郡郡ゝ
芋乃花ゝ乃伝ゝ日ゝ芋ゝ乃ゝ人ゝ郡ゝ住ゝて
又形物撰ゝ後ゝ花ゝの
香物ゝ芋やの味ゝ
家の内ゝ盛ゝ
芋乃盛の芋ゝ餅ゝ
伊勢ゝ川ゝ
不也　今宮村　三河ゝ
宗生村　青朝日ゝ形来ゝ

嶋湖より宮まで二里ます十町

中略格あり　田口留格もさ十八丈

たのうらに。大竜乃天わり　ゆうりや

格倫山観福寺。観音の奥場あり。仏ぞ所ゆ

り観音乃木像地ゆ　開帳あり　とつのぶ

ろづく。ホ三年　ように。開帳あり　とつのぶ

ぶし　ぶれど。観音堂　人　けちみ　ぶ　ところて男

白雨　あ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

日野村　たのうらへ　古町　ぶ　ぶ

山場ぶ　あぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

右乃方に仙人塚あり。ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

のりて嶋湖の間より。ぶ　ぶ　ぶ　ぶ



とり湾より大船にてありて。大船の

えこ出あり。その上のすみ。仙人塚とて

馬ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

宮より東名ぶて七里　ぶ

楽所泳ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

名所めれぐ。ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

えれど風ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

てぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

らぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

ぶめれぐ。ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

あしのぶ　ぶて男　ぶ　ぶ　ぶ

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

家屋宅とをすすめ。奥田の大明神ゆえ。田
すゑも。燒田は暗して。呂之と中ゝまつり。
ゆりもして。尾張乃国うち。法ゆゑ。海ゆゑ。
よ。花園の郡。熱田大明神。神主倶梨伽羅不動
明王乃象作。八剣大明神。草薙の
寶劍なり。神世のつゝへ。素盞嗚尊八岐大蛇を
神の御手なり。はるゝ。きゝ。氏神の
ゆつる。天せうた神と。山中ゝ。ゆ。この国へ流
れ。ひ。ゆ。の國。熱田の川。よ。あ。と。ゝ。の。ふ。
不。ま。ま。摩乳。足摩乳。と。ゝ。と。
あげて。嘯。山もび。伝。ゆ。
ゝ。ゆ。ゝ。ゆ。ゝ。ゆ。

といふ。そのみいきの文、なをさ
まらず。おろかなる民、こゝに家をいとなむ。
ものぞ神よりおこるなり。そのあるいは
ら。そのなを稲田姫とぞ。ときに、ちゝ
ゆひ。八乃酒をもつて、八醢乃酒をそなへ。毒の
酒をこゝろみる。やがてよこたはりて、大地こゝろ
ちよぐわを姫乃剣とぞ。海とものぼりとを
ひ八乃毒を八のこしらへさせ。毒の酒と
みなをこゝろみるはかぐ神なるべし。
りち千振乃剣とぞ。天じやをはらこゝろ
のか



まして人王乃世となりぬ。亥位天皇乃治時。倭姫
乃命。天せつを社の沼矣とつくるこゝろ。のかう剣
ととりもち。伊勢乃国渡会の郡五十鈴川と
うあるのほとりのみや。今此内矣こゝろ。
人王十一代垂仁天皇乃治とき東国乃りの
とし王命よりしきしまつ。日本書のみこと
大将軍ニしてゆくこゝろ。武しこのうちもて。
えうにかつてこゝろ。するすなわち四
尾張のくにまでこゝろ。
人乃あるよとこゝろ。そのむかしあるこゝろ。
やすに契りのひめ。つまとこゝろ。
うしくとこゝろみなをこゝろ。

ゐどのうちにて。東國の名どくしゃもろゆう。
この世うよ者ゆりし。狩してわそびのまへうと。
ゐる子ぶにのりえ。ーしめ。野ていわて狩ー行ふ不
う。東國の奴原みしちゐんとわそー。第世うよ大と
つけて。ゐるを中ぶうさ年ようす。ゐるむーゐその
きんとめとさて。ちうは。おぎまつて。その火しゆん
の面ゐつーはりえうり。人ゆくやけりうびし
くど。はけーまううさん。ーゆりそれーうこと
はうぶさと草薙劍ーふゆすぬ。はくゐるハ面に
ゆりてめぶりのめはく。上世の湯うて。浪風ゆう
くゆふりえうんとて。文美姫湯ゆーうて。祭
神とうぶのめ。つけーよゐるハ面ーりわうゐるゆひ。



うゐうーうゐ世の國。祭井ーゐ。ーうぬよわぶさ
のひ。東のうーしひうて。文美姫と言く。君
妻妻妻として帰ゆのーーり。東國ゆとーあく
わぶーといゆーーぬ。ゆう曳ーり尾張の國ようく
ゐ文美姫のゆーはゆうさ入ゆうゆ乃ゆまに。ゆの
草のぶ乃劍とーせうひて。湯わびのうーようぬ
わは火のえうーて。四乃中は焼ーゆ成ゐて。四
のう熱ゆうーゆ。樊田とんゆすぬ。ゐるそ
うゐーより伊吹山ようゐ入のうんぶゆの大じゆゆうれ。
ゐ乃中ようゆせり赤ーゆ。ゆるとびちえゆあは。
野ーもうー大地乃蹉よわーう。うゐーりうえ
ゐのひ。大樊人乃ーーゆ。清水ゆわーと所

ひろしまの人いはく。その樽を見あらひ。ひろしまの
不と。醸ゲ酒ときくなづ山きり。つ中ゆそるいた大ゆ
ね島とありて。みのきこの山はきてとびこりうよ
ときどりのふ不よ神こつくひをう。河内乃国
島乃四神とかいれきん。みやら出人いこの不よ
国一乃氏さて。神と伊こ元こてとつふ。熟
田の明神と出りり。稲田宮称も神ときわり。
今湯ヒ乃ときりは国一乃あり。家ちまのえへて
出りり。大倭を家ふの帥長宮い琵琶乃とよ
ありり。法一泉三年のときろ平の清盛ゆうたこ
みてとつふ年一ありて。伊豆乃おりあご
ありりけるこ丸社はは立ときりて。琵琶と源ふへど

四神いはるを程ていりてあり。清ふあく
出んわときれて。氏四ありるよ。りときくめりえ
れ。清よい姫君尾乃天院ときり。みりこ
し丸玄宗皇帝いこ百余列とわきあ日中と
こらんとふりてそのふと
とありて。氏ふこ一乃ひえわこ日ととう
ありて。清盛ゆ楊貴妃いこ。馬嵬ゲ陵ってこりえれ
ちひしと。新古撰集とこ人とつりて。ゆきひ
乃魂ゆくよりとふ。○きよ。遊宴ゆう
おりまりそこ。ふねこ出いこ社ゆとりて
てりとこ海くとりふりりよ。男と楽乃涙と
持のつれとすくうみり

さうらうとして。やうやくわれに
わかつて。汝うそ。あのつかつてくびとそかうさきり。
のり合ぬ様人れ。こゝ来にて。
そくびれさう新ちあげて。ゆるゆるきゝ小手と
ふもわり。福とふ人もあり。雪の涙は。
そぐくさて。海しくうして毒づくもとうと
つ形ふ。男オ日系えぐ。のくしたみしくうき。ゞ
くゞやと。彩○ゆりうれぐ。ぬ也北同のうこ
とふ不うて伝づれ。ゆ。ゆりみ涙の素紐弟よ
して。伝新ようくり生。むりんとれうてくさ
ヨ子ます。京岡ヨ地ゆう年とんゞ。もよで
くぶりて長田ゞ物よくれうの。長田日比

乃歌にされ。わがむさぼる世間の政治よりして。あ
だうそうしゃ也。やうぶすまのうち美うし
改きよう義と。邪よりしてのがり。辛あり海
いせて。大ようえんじやうみやびうるやとこ
ひうるおれ。業代乃を意とうけの不忠乃
りのもと。くわこそれぐけてよげ
ちもいず。年ぶかうえい。後の代よその
こしませよ。ゆきされで。長田いろゆも
りわへず。ゆびぐりせ。辛家国ゆち
て法。新朝へ出ちハして。おけのと。くく国ゆ
ちりそ。くこ長いてせ。せんじやうい忠節よよ
ゆ。ゆこのうえで。ゆこ。ぶうろびあ者よぐり。

金ちくうり。敵ゆりくうちとり。流金人ゆを
ゆうと。新朝うくく。礫ゆけひ生ちうちゆ
す。今ゆ美羽の石塔あり
ちゆうゆ侵略として肥馬ゆか不ゆり
ゆうく。新名ちくゆうゆきて。ゆこうと三里ば
うを乃ゆうち津略乃ちゆをとして行ちます。京
此紙写なし一弾ちて行ちゆ。男やて此
ちをの由来やちうゆしけゆ。くうりゆえとゆで
ゆ中みな一同ゆ不弾ちくくとゆ。楽ゆ保ちは
ゆくゆかうりゆうえとゆ。新ぐちくうひて
うくゆ。うちくこと此天をとゆ。神代の
うゆへいうくけゆくを。天照を神乃ゆゆく

素盞嗚尊とぞ申す。一説とぞ申す。天神とも
申す。西宮に祭る事は由来と
なり。○あるべし。しかるに倉橋のちまた
高貴天王とぞ申すけるこそいとゞ
ものとおもひて民とあれこそひ海さつ
国のこゝろゆきうれり。帝釋天王とぞ
切利天より朝ひ
十八宿九曜七曜の星乃ゆの星乃
ありてその時乃天皇
てみ天ぐようりて
ゆくこゝろ牛乃面とうできて
のゝ。ぬれ角ありて天ひ
ゆ。力のこゝろ大

所のこゝろ世の人
もろ〳〵ぬこゝろ
天下いゆこゝろ
うるこれで。
雲乃翔乃
のこゝろ山
天王乃とうて
帝釋の姿
はぞこゝろ
こゝろ大海乃こゝろ
海こゝろ
畏女とぞ

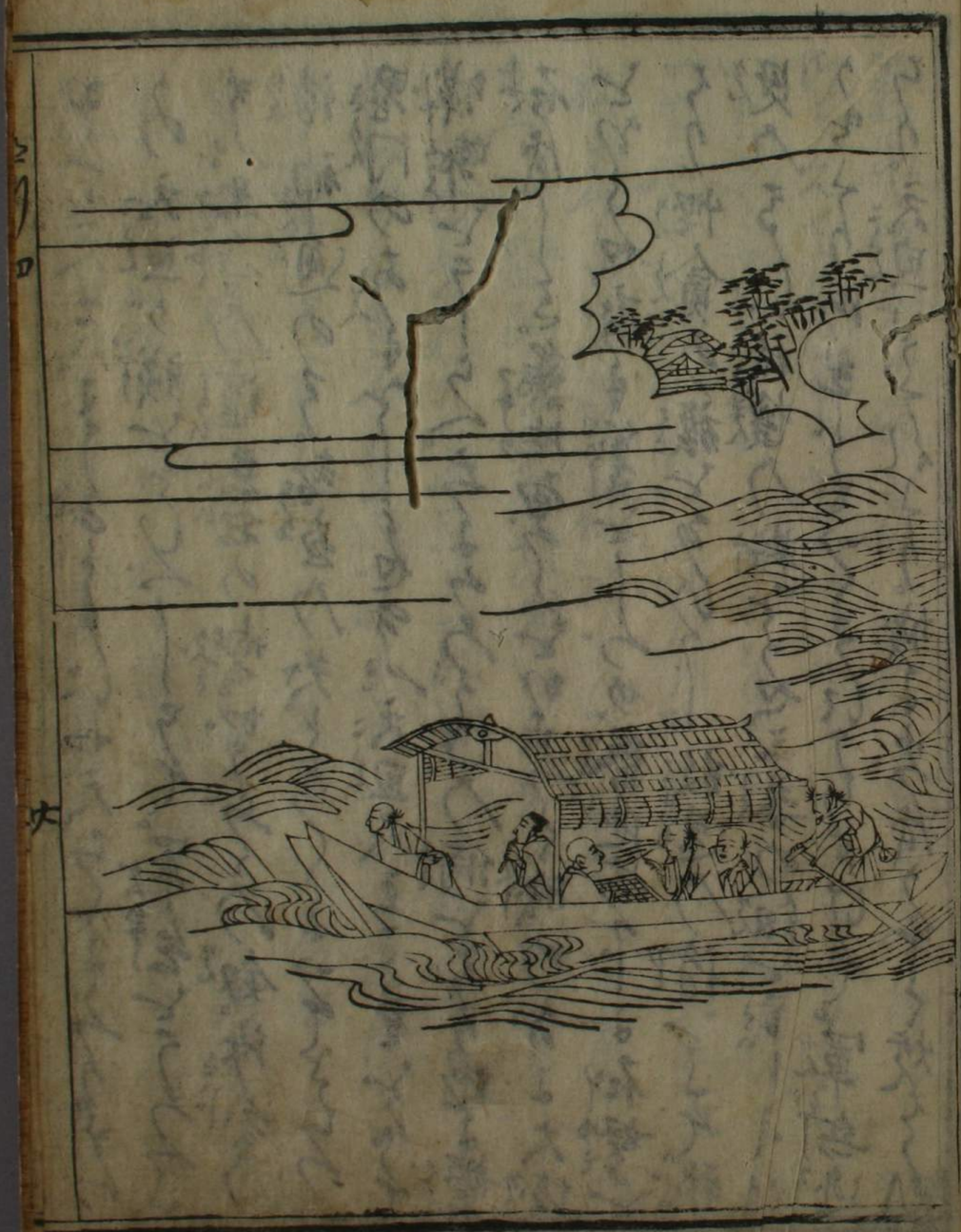
牛頭天王とぞ
ぞこゝろ
ぞこゝろ
ぞ
ぞ
ぞ

妻と打ちうち。中二とぐ帰命女とろづりてこれ
ハ小海氏雑説つもりを乃所とあり。中三と隠利乗
女とあづく。二人のわ〇まをすぐしてぐらこづ。
茨金乃ぐえひりうやき。三十おい茨とあざ
ひうり。つまぐ所ようまの。ちまりうりて
所とうの。こうて。こうれ行てわづりの。ちる
ろうびのひ。此車とつづ。あまう乃ちを
茨やうわ〇也。南海ゆしのたの乃き
八方里也。南〇〇三方里とうく。馬人とよつれ
ゆり。寄に南天ぢ〇乃ゆ〇ゆ茨双国とつあり。
こ此国乃夫もれい。巨里旦とぞやもの。打そう
こ鬼神もの。ぐ。その上ぐ海器家の

ゆひり。夫旦此車とうやて宮所乃ゆ
夫国ちをゆりて常所うぐ。大をいちゆ。
りこの。不ち。千里ゆ。こゆ。れ乃原あり。寄
り一人の女。ちに。竿ま筑とりち。肩ゆ行の茨
とうけて れ乃前第ゆ。ひりち。ちを女ゆ。やと
ちの。女こうて。やけ。ゆ。これ夫旦ちを
乃つゆれりの也。肩の。
ぐ。ゆぐ。ゆ乃ゆ。ゆ二人とやぐ
てちうへ。きこ。ちをゆ。ゆ。ゆ。ゆ
ゆ。清茅生ちぐ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ
貴ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

かりうまめて宿りのあるじとちをうちひ
ものの命ず車とそをくりてそのよのいと
を翁うて遠のきたれりてそをうち。ちをう
宿とうるさのつとあるうのうく。秋いはくしに
そうを翁うてそをさ見ぶるしうじる。
いいんやそをそうつるうのうのかつ。そをう
うるるんをたちやうをんとやす。天をいの言て
たをはる。るんをうをしてつうをしり。ひくよ一夜とは
うはうんものをあるうらうはく。栗柄とをさ
てをそれう。栗柄炊て柳の葉をりとて。天を
うをてをうる。天をんぐうとうんぐて。黄人をふ
あとたをる。ひくて主をうり。而海のうをくぐくあるを

ふるのるんあるはくこをしより五百里ばかり。
りんやうをうをいい。馬車はゆくうをずとをうを。
天をうをんをのくぶをんちぐようをんをうる。
あるぐはいくく。我をひくのうくはるるひる。
そのそをは雑話をうる。見をやして一はのやを
百万里をゆ。これを備をんとく。ちをとはを
よをまうるにはのうるんはをんをうるる。
家にうをうをこみうをとゆをてちをようをびをそ
ぎこうをとひんて。不老門とひくこと。長崎船
うる。娘紙あうをせをてをうるうを。ちをを二十四
年のはのひぶ。毎月うをるをりて。ひ月とか
をひ海契り浦うをぐ。八人はをとをうをををう。



かくて大王八まきみとしたわ天らくようぞ
の天皇ゞ城をきしづしうて。軍吾とうろて
ゝ。悪摩乃瀧。岳の堺。ゞゞ乃劔。海ゞ乃
緣。神通のう。智恵乃矢。とりくよりそうて。
鬼門のあはたしもすゝ。天皇大王ここをとゞめて。
城郷どうらへ。ちようろゞ乃綱とうり地よ堅
石氏しゝ。築地ゞゞ城のかよ大塀
とりうもゝ。ゞ乃ゞ築をしづめ。築他めゝよ石弩と
とうり。慳貪の禍とゞのゞ放逸乃淫とて。邪
見乃ちに秘慢乃鞍をとゞ也。三毒の劔と帯して。
うをうり。ゞゞ乃ゞくゞうくうをけて。軍兵逃
うり。天皇いうづしうり。城よ火ゞうゞく焼ゞう



蘇民将来ゞ家よりのみよりみ
ゞうえて長ゞとゞうり。天王八まきみとゞ禍じ
いまくゝ三日三夜なくゞゞあゞう。天王ゞゞ
ゞすみゞう夜叉國と前ゞうたりうゞゞうくゝ天王八
秘まゞゞいうめ疫神とゞうり。悪人とうろう
ゞゞ。蘇民ゞ来ゞゞ。ゞゞ孫どゞ。ゞゞ災ゞ人ゞう
ゞと御ゞゞうり。天王ゞ門とゞゞゞゞゞゞうり
ゞゞゞゞゞうゞて。つゞゞよゞゞゞ
倭時乃神宝とゞゞゞゞゞゞゞゞ
ゞゞゞゞゞの門乃軍兵八万四千。今ゞ御ゞゞ
ゞり。六月十四日ゞ神事ゞゞ。蘇民将来ゞ
ゞうて。三日三夜のゞゞゞゞゞ儀式也。京の

祇園は清のうしなり。清盛より[illegible]。三社の内神一ま
はせ天王。つまは頗利采女。これは后なり。みは
か將井なり。三つは乳毒鬼神。これ巨
旦大王なり。祇園社の金乃四十九尺とあり。
四十九乃[illegible]社なりしとや。八王子とやすは。つま
はそ鬼神。二つまは大和軍。三つまは太陰神。四つまは歳
刑神。五つまは歳破神。六つまは歳殺神。七つまは黄幡
神。八つまは豹尾神也。蘇民將来は大流神とも
[illegible]。文旦大王は金神とも[illegible]。そは中は[illegible]
尾は三奠荒神なり。[illegible]
大吉なり。天流の方は方にて大吉也。金神は北方を



方をまたがつてあり。今艮のうし鬼門とやすは
巨旦大王はそなみの門の方なれば。つまはそ
ばにて方半はわ[illegible]。[illegible]時半頭天
王はくせんなり。[illegible]月十日[illegible]
息とあつて。[illegible]
[illegible]。[illegible]西[illegible]。風[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

素名より宮市まで三里八町
ホヤウ〳〵つゝさわぐ。〳〵あがり坂。樂ゐ添中
ゆかい〳〵。清兵衛の大宮ゆく〳〵ようさ行
ゆくとゝ。大なる乃ゝまこと。こゝとゝぐひ
うんとうそつのとゆめそひうんとゆし
ゆく。此ほど大宮ハ大和の玉井のこゝろか
つゝ。大なる乃ゝまこと。玉井乃こゝろ
わゝ。極すとゝやそ。こゝにこゝ也。大宮ハ
このゝ〳〵やしゆ。ゆきこゝとゝひうゝひ
伊勢ゝ神ゝ入ゝ。こゝでゝひゝこゝ。こゝ此
素ゝ清水ありゝこゝれば。東國の無ゝ也つゝた
てゝ。大宮ゆ后とゝぐ。ゆ不ゝとゝぐゝゝゝ。

ごとくつくりのと新して。美濃乃国不破の関
うれなりしなのひくだ大石乃宮まとつくさあり
けるまつ井よりくさよりはらしら地ろくに伝よ
はう也のこ。天武天皇ちかいこれ市
ます也。さて此所い天智天皇乃はしすめうて。
大石乃宮今此ゆるしにいのうちうてまく
ろり。後まはるる井とよりまつせのひく。拾儀と宮
とてやうてまつりけるのうみこれ薬師
おそうしけるのの不い宮也とたまる人也。
み屋武天皇乃はすよ。岩本乃廣純朝臣とろ
長下。肥前の国松浦とふとうてひわと
はうしけるのとつるのとはうてせうも

はのはいりうてこ。ろをい伊勢を神宮よ
うでのひうまりこれ業名はうりのひ。平流
乃宮より。道はるまへのひく。郡よ人口のこ。
由よ廣純うれよりかの廣純うれて段。
その吳魂はりぐ多つ氏かけるは。神と
いうひうり。今の松浦の明神これ有りこれい業
名る天武天皇二代乃みこの。こゆうさあり
けるかも也とうる
ちの方に城あり。町中とうるは大よは此橋乃の
くはあり。宮い祭の名物あり。祭い法華よは
きとし。奥会乃奥うしあるい。伊勢を奥ぐりは海
うる年一の。まま和宮業よりあり

今そ一ろ二見乃浦の磯と貝会とそいろかりのとい
ろいろもろもろ。此国乃名物とうあるろや貝厚
くして破ぐ。ろ。牡蠣し伊勢とろ
うす。ろ珠も能国ろりハ。この国乃殊ととす。
磐の完と申ます。日よりて。あろりろや
ろ外て奏也

[illegible]町　大[illegible]の村　やろ村　町屋
やろや橋　小橋　大橋もろ百六十間ろ也
縄生村　ゆ[illegible]　ゆ[illegible]　ゆ[illegible]
ち橋もろ[illegible]間わり　ゆ[illegible]村　わろ川
りろぐ村　ろぐ村　ろ乃村
ろ乃川　ち橋もろ[illegible]九間



す忍ち橋長さ廿三間。この辺ハ四日市宿北の口也
四日市ろり石薬師　まて二里ま七町
伊勢石ま村　ろ[illegible]ろ村　わろり村
右乃ろ社林のろろよ。天照を神乃社わり
ひの村こ此村也。ろ[illegible]ろ[illegible]ろ乃
追分此町ろ也。ろ乃方ハ京海道ろり
海乃也。ろ乃方ハ京海道ろり
ろ[illegible]村　ろ[illegible]町　橋わり長さ[illegible]十五乃
杖衛村　ゆ[illegible]ろ[illegible]ハ饅頭わり風ろ。
ゆ[illegible]ろ[illegible]乃ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
小岩村　大岩村　ゆ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
左乃方ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]

石業師より左師まで共五町
宿の中ちのうよりよりより

神ありてぐそくみけ
はんぐもいのまてやぐそくめてよ
　　ぐそくいこてこいろくこまつ
こてこまやぐみはぐそくのぎ町とりあるぐそくの
くくて北斗川より流るすが川わり
　　二里
　　火米あり。その儀乃ありい。
これ宮乃名物小儀乃火米あり。
ちさわぐりこぐりわぐ地。まをゑ絵くて編くち
小儀也中とちくまくさ絵くてはくちあてれぐ。
倫ゑ北くくらゑ川くり。内ゑ火米ちくくわり。
どくにかくべくさくて賛ゑくり。清泉乃猫人賞のくあ
て国りくの生ゑ孫どりて。出産くてくくくすゑ

ぐくくあり数句し
　　ゑくらぐいくりゑーやくう冊の米様。
明類本原　うみぐ　中くうみ面　あとくぐ
八ゑゑの月神わり　　北斗川
泉川　稗わりいぐくくく